

うらみより恩を忘れない人に 2017/03/06

高3 村岡 静月

今回は、高校生活で最後の黙想会でした。卒業して社会に出ていく前に、大切なことを学ぶことができたような気がします。

「恩は砂の上に書かれた文字のようで、うらみは岩の上に刻まれた文字のようである」との言葉が印象的でした。

確かに自分を振り返っても、人から受けた恩は波が引けばあとかたもなく消えるように、別のことに心を奪われては忘れ去っている気がします。それに対してうらみは、波でもまれても消えないくらい深く刻んでしまいがちです。

私はこの話を聞いて、その逆である人になりたい、恩をうらみの深さ以上に心にとめて生きていける人になりたいと思いました。これまで私は、どれだけの恩を受けて生きてきたのだろうと考えます。

この世に生を受けてからは何百、何千という人から恩を受けつつ成長しているのだと考えると、本当に海辺の砂のように忘れてしまっている恩が多いことに気づかされます。

今回の黙想会を機に、感謝を忘れず、恩に報いる生き方ができるように羽ばたいていきたいと思います。

(伊佐市)